



# はるかのひまわり

～あの日をわすれない～



17年前(1995年)1月17日午前5時46分、あの日を覚えていますか…。

阪神・淡路大震災で小学校6年生のはるかちゃんというひとりの少女が壊れた家の下敷きとなって亡くなりました。その年の夏、彼女の亡くなった自宅跡に大きなひまわりが太陽の光を浴びて一輪咲きました。その花を見つけた人達は、亡くなった彼女の面影をひまわりに重ね、「はるかのひまわり」と呼び、人々の「復興」と「平和」への願いが込められ植え続けられています。

被災地で発芽し育った「ひまわり」を育てることで、命の大切さや自分たちにできることなどを考え、次世代へと繋げていくことを目的に実施している「はるかのひまわり」推進事業、南北小学校に看板も設置され、今年も大きく育っています。



南小学校では、背丈が大きくなるひまわりにシルバー人材センター会員6名がボランティアで支柱立てを行って下さいました。暑い中での作業でしたが、休み時間には集会ボランティアの子どもたちも手伝ってくれ、大きなひまわりを支える立派な支柱ができました。

## 南小学校の1年生からの …ありがとう!

- 入学したばかりで通学に慣れていない1年生を対象に、入学から5月まで防犯を兼ねてシルバー人材センターの会員による見守り隊を実施しました。後日、1年生一人ひとりから会員へ「ありがとう」の気持ちを込めた写真入りのメッセージが贈られました。

